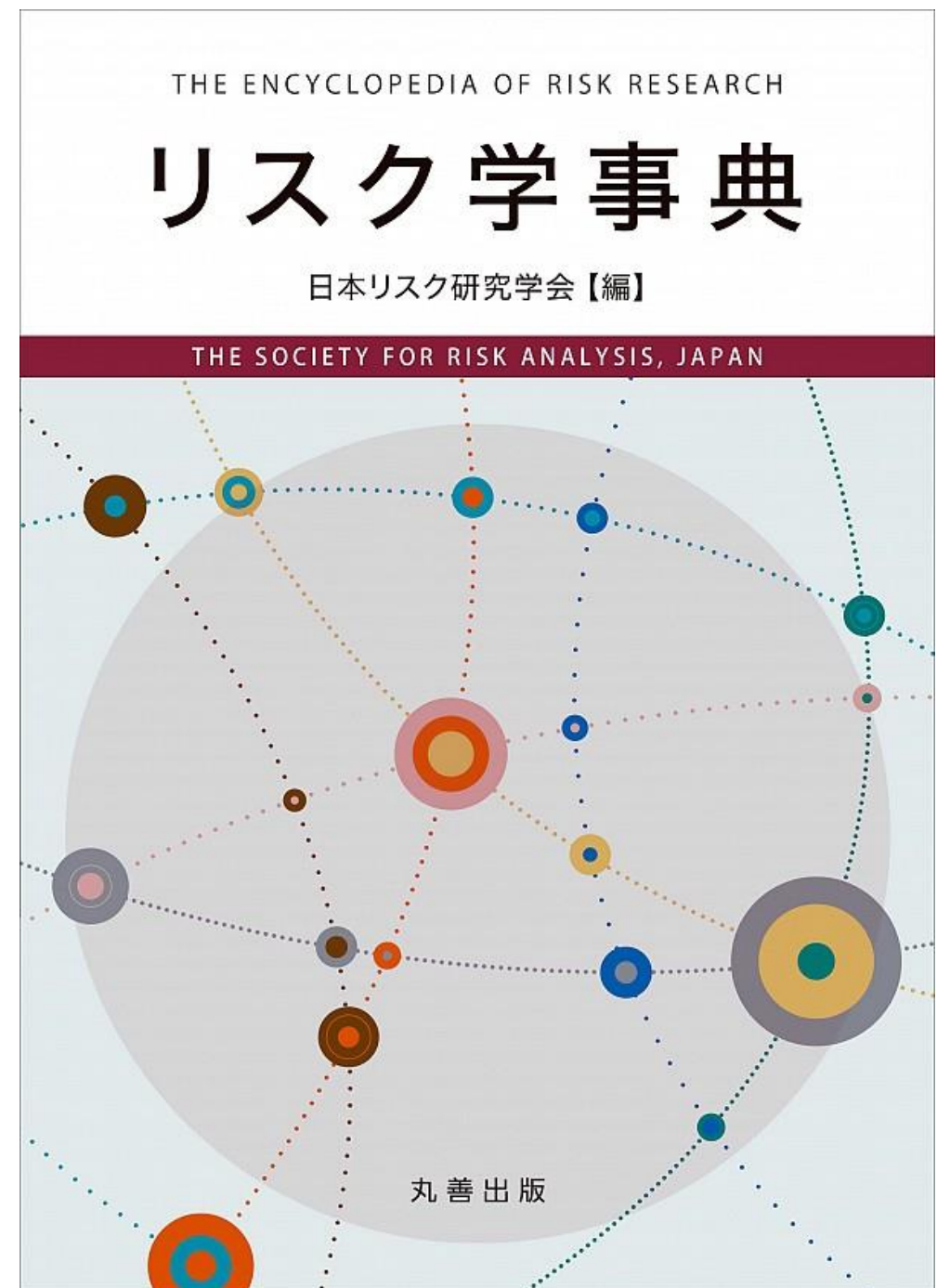


リスク学事典の 発刊経緯と趣旨

2019.6.26

リスク学事典 編集委員長
久保英也



日本リスク研究学会における関連事典

(1) 系譜

- ・2000年:「リスク学総合辞典」: 出版社阪急コミュニケーションズ
- ・2006年:「増補改訂版 リスク学事典(423P): 同上
- ・(2008年:「リスク学用語小辞典」(12領域、1,600語を収録)): 丸善出版
- ・2019年度:「リスク学事典」: 丸善出版

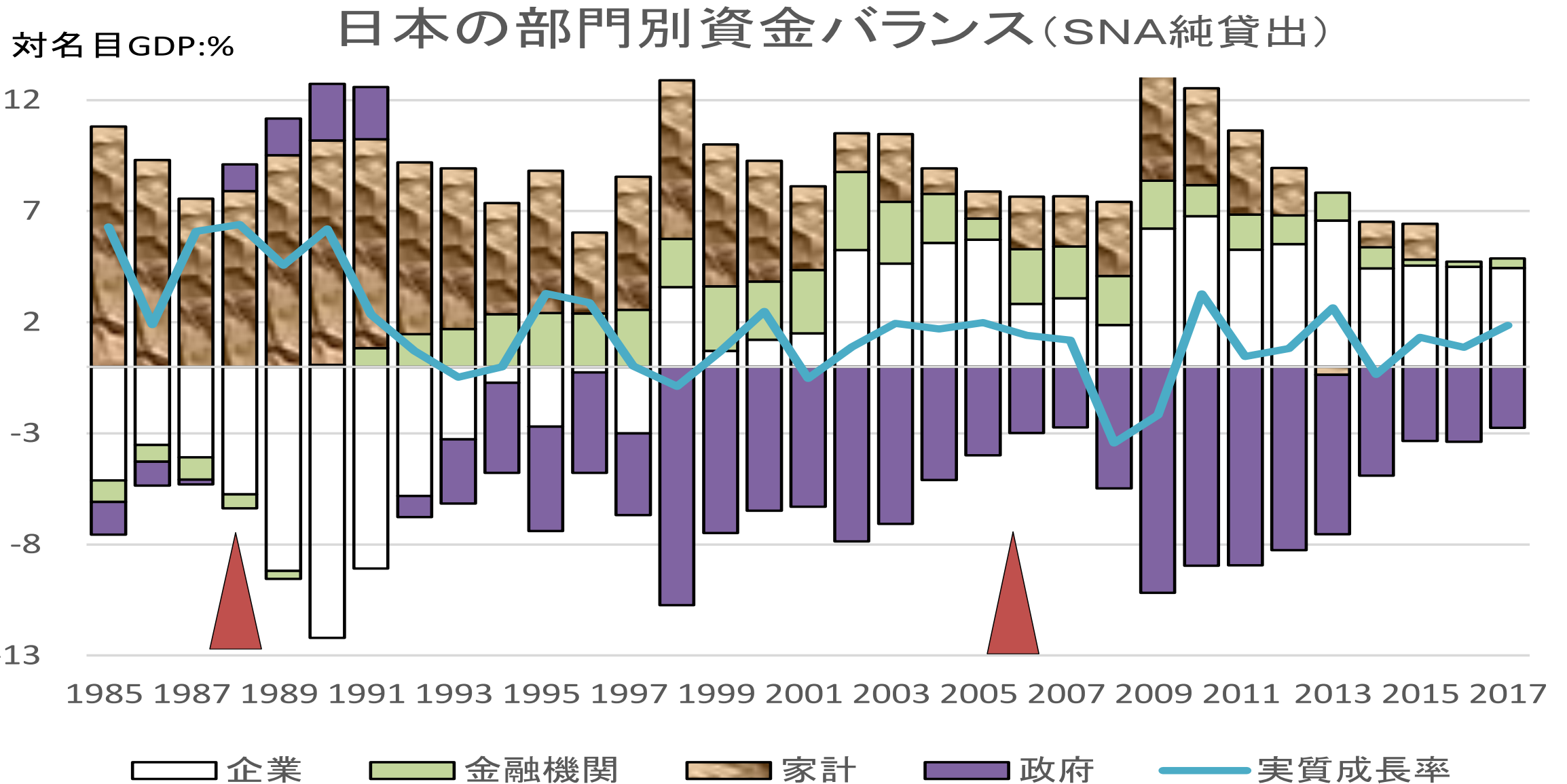
(2) 今回の事典の構成

- ・全4部、13章、195の中項目、160名の執筆者
- ・A5版: 本文691ページ、その他とも全: 809ページ(出版社表示: 736P)
その他(中項目見出し語索引7p、目次・執筆者一覧など10P、
付録(学会の歩み)5P、和文引用文献12P、欧文引用
参照文献14P、和文検索36P、欧文検索32P、人名検索2P)

(3) 定価 22,000円+税

(4) 出版社 丸善出版(株)

学会創設後30年間のリスク環境のマクロ変化



リスク分野を取り巻く環境変化

① リスク分配、リスク許容度の分野別変化

公的部門のリスク対応の限界、政策の優先順位づけと外部へのリスク移転など⇒「残余リスクの増大」 <第5章>

② 産業革命に匹敵する広範かつ同時の技術革新

⇒IoT、AI深層学習、ビッグデータ、DNAゲノム、自動運転、
「エマージングリスクへの対応」 <第13章>

③ 相互依存性、相互接続性の高まり

⇒「リスクの複合化」(自然災害、金融危機も複合化) <第1章ほか>

④ リスクの固定化・格差化＋SNS、ネットによる情報の庶民化

専門家のコントロールが効きにくい

⇒「リスクの市民化」 <第4章、第10章>

事典発刊の経緯

環境 変化

- (1) 環境変化がリスク学の本質(科学的合理性と社会的合理性)を際立たせる。学際性の高い研究と社会との対話、行動する実学の要素が増大
そのために他分野を知り、コミュニケーションのしやすさを確保する必要⇒リスク学の整理、体系化を求める声
- (2) ここ13年のリスク環境の変化⇒リスクに関する知識や情報の最新化
- (3) 社会実装を加速するための、他学会連携の加速
- (4) 学会組織の事情(2009/11末:648名
⇒2019年/3末:555名、▲約100名) 新規会員候補群(学生、実務家、自治体の政策立案者、エマージングリスク分野など)の広範な取り込み

「リスク学」の本質

- (1) リスク学を取って定義すれば、「リスクの取り扱いを巡る、個人的および社会的な意思決定に関わる多様な学問の集合体。基礎的科学研究と現実社会の問題解決とをつなぐ部分を可視化するところに意義があるレギュラトリーサイエンスの一つである」
- (2) 一方で、未だ現実になっていない事象を扱う中で、少しでも合理的な意思決定を行うための学問でもあり、科学的合理性に加え社会的合理性が求められる
- (3) 解は一つでないことが多く、各分野の考え方を尊重しつつも分野横断的な思考と課題の共有から始まるリスクコミュニケーションが常に求められる。外的な科学政策や文化の変化にも「実践」を通じ向き合う必然性がある。

日本リスク研究学会の会員数推移 2019.6.26

		2009年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
		2009/11/16	2013/3/31	2014/3/31	2015/3/31	2016/3/31	2017/3/31	2018/3/31	2019/3/31
正会員	正会員	557	379	369	364	343	339	341	335
	正会員JRR		144	147	142	135	128	119	120
	【正会員計】		523	516	506	478	467	460	455
学生会員	学生会員	55	43	42	51	55	60	62	52
	学生会員JRR		12	10	10	7	7	9	7
	【学生会員計】		55	52	61	62	67	71	59
賛助会員	賛助会員	11	0	0	0	0	1	1	1
	賛助会員JRR		6	6	4	4	3	3	3
名誉会員	名誉会員	2	3	3	4	4	4	5	5
	名誉会員JRR		6	7	8	8	8	9	9
購読会員	購読会員	23	18	17	16	16	16	19	19
	購読会員JRR		4	4	4	4	4	4	4
合 計		648	615	605	603	576	570	572	555

表J 日本リスク学会の会員分野構成 (2019.6.3)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
分野	環境（工 学、化 学、計 画）、廃 棄物、水 資源、土 壌、生態 系、大 気、海洋	食品、 毒性、 農業、 植物、 生物、 畜産	放射線、 原子力、 エネル ギー	防災：気 候・地殻 変動、安 全、都 市、地 域、土 木、建 築、社会 基盤	化学	医学、 医療、 （公 衆）衛 生、疫 学、生 命倫理	機械、 システ ム、破 壊力学、 製品安 騒交 通	リスク（科 学）コミュ ニケーショ ン、（社 会）心理 学、哲学、 認知、 ジャーナリ ズム	リスク総 論、歴史、 教育、情報 （セキュリ ティ）、文 化人類、エ マージング	政治、 法制、 行政、 規制、 倫理、 労働、 社会学、消 費者	保険・ 金融、 経済・ 経営、 ファイ ナン ス、統 計、数 理
小計 (名)	108	34	25	51	23	24	11	75	29	27	45
割合	23.9%	7.5%	5.5%	11.3%	5.1%	5.3%	2.4%	16.6%	6.4%	6.0%	10.0%

(注) 会員名簿に担当分野の記載のある標本のみ抽出、分野が不明確な場合は蓋然性で分配。

合計

452

学会名の変更の下で取り組むこと

学会全体のインフラの見直しと本質である学際性を際立たせるため、

(1) リスク学事典の発刊(リスク学の体系化と分野相互理解の推進)

(2) 学会誌の電子化による国際データベース(Scopus, Web of Science)

への接続と査読審査時間の大幅な短縮、論文アクセス性の飛躍的な改善

(2) 学会レガシーであるリスクマネージャー資格制度の全面見直し

(3) 学会の分野別バランスを修正する他学会連携の推進

① 安全工学会 7月3日

② 放射線除染学会 7月10日

(4) SRA Asiaをコアとした国際化

(5) SRAとの再度の要請に備えた体制整備

(6) これらを通じた会員数の増大

リスク学事典の構成

部	章	名 称	中項 目数	部	章	名 称	中項 目数
第一部 リスク学の射程				第三部 リスク学を構成する専門分野			
	1	リスクを取り巻く環境変化	16		6	環境と健康のリスク	20
第二部 リスク学の基本					7	社会インフラのリスク	14
	2	リスク評価の手法: リスクを測る	16		8	気候変動と自然災害のリスク	20
	3	リスク管理の手法: リスクを最適化する	23		9	食品のリスク	15
	4	リスクコミュニケーション: リスクを対話する	16		10	共生社会のリスクガバナンス	15
	5	リスクファイナンス: リスクを移転する	7		11	金融と保険のリスク	11
				第四部 リスク学の今後			
					12	リスク教育と人材育成、国際潮流	7
					13	新しいリスクの台頭と社会の対応	15
中項目数 合計				195			